

学校 教育 目標	相手の考えや気持ちを大切に、互いに高め合う浜の子 ～見つめ合い・伝え合い・高め合い～ ○「問い」を大切に、友達との対話的な学びを通して考えを深めながら、意欲的に学びに向かう力を育てます。(知) ○人とかかわりを大切に、コミュニケーション力を高めながら、自他を大切にすることを育てます。(徳) ○健康で安全な生活について自ら考え、健康な心と体、生活習慣を創ろうとする態度を育てます。(体) ○まちと進んでかかわり、まちへの愛着を育みながら、地域や社会のために働きかけようとする力を育てます。(公) ○様々な人とかかわりやコミュニケーションを通して、広い視野をもち、ともに生きていく力を育てます。(関)			
	学校 概要	創立 79 周年 児童生徒数: 698 人	学校長 青木 圭介 主な関係校: 汐見台中学校、汐見台小学校、山王台小学校	副校長 千田 朋子 2 学期制 一般学級: 20 個別支援学級: 3

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	汐見台中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈コミュニケーション能力〉 〈協働して課題解決していく力〉	汐見台中学校 浜小学校 山王台小学校 汐見台小学校	○自らの可能性を追求し、主体的に考え、行動する子ども ○互いの心を大切に、学び合い、高める子ども 「コミュニケーション能力の育成」をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科においてテーマを意識した授業を展開する。(ブロックで年2回6月、9月) ・ブロック教務主任会(8月、1月)では、取組の成果の検討や児童生徒指導についての情報交換、資質・能力についての相互評価の機会とする。 ・児童生徒交流日に、6年生が参加する体験授業を工夫して行う。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりを大切に、まちとかかわりやつながりが豊かな学校にします。 ・人権教育に基づく「自尊心を高める授業」を推進し、意欲と対話的な学びを大切にしながら学力を向上させます。 ・社会に開かれた教育課程を推進し、まちの人とかかわりや地域参画を通して、豊かな学びと心を育みます。 ・体験を通じた学習、実感を伴った学習を充実させ、子どもの表現を大切にしながらコミュニケーション力を育みます。 ・心と体を大切にする健康教育を進め、自他を大切にすることを育てます。 ・幼稚園・保育園と連携してスタートカリキュラムを充実させ、安心して自己発揮し、学び合いをつないでいきます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 指導部・研究部	①一人ひとりが主体的に取り組み、学びに向かう力を育成するために、自尊心を高める授業、学習のプロセスを大切に授業、問いを大切に授業、実感を大切に授業、スタートカリの充実を図る。②算数科・国語科を重点研とし、主体的に問題を解決する力を育成する。
徳 豊かな心 担当 人権・福祉教育部、道徳部	①道徳の授業、評価の充実を図り、多角的・多面的な見方・考え方を広げる資質・能力を育成する。②たてわり活動などの交流活動を通して楽しさを共有する喜びを味わうとともに、自他の良さを知り、思いやりや感謝の気持ちを育む。③まちの人と豊かにかかわる学習を通して生き方にふれる。
体 健やかな心と体 担当 体育・保健・給食・学校保健委員会	①浜スポタイムを継続して行い、運動に対する親しみと意欲を大切にしながら体力の向上を図る。②全校児童参加の学校保健委員会を通して、一人ひとりが自覚的に心や体の健康について考え、実践できるようにする。③「挨拶は心をつなぐ合言葉」を合言葉に進んで挨拶を交わし、校内の明るい雰囲気大切に作る。
公 地域連携・ 開 学校運営協議会 担当 教務部・地域連携部	①まちの人とかかわる学習や地域交流行事、つながりを大切にPTA活動、おやじの会等、地域や保護者とかかわる機会を大切に、地域環境を「子どもを共に育てる地域環境」へと導く。地域企業との連携をさらに進める。 ②学校運営協議会を汐見台中学校とともに設置し、地域と結びつけた学校教育を推進する。
いじめへの対応 担当 いじめ防止対策委員会	①月1回のいじめ防止対策委員会を確実に実施し、認知された案件やいじめの芽と思われる事案について状況確認を丁寧に行い再発防止に努める。②いじめ防止研修を含む児童理解研修を年6回行い全職員がいじめに対するアンテナを高くする。③YPアセスメントを活用し、状況把握を的確に行う。
人材育成・ 組織運営(働き方) 担当 教務部・メンター・ミドルチーム	①学びたいことを課題とした主体的なメンターチーム研修・研究を行い、教師力の向上を目指す。②未然に防ぐ児童指導、適切な保護者対応を組織体制で行うことで対応の重大化を防ぎ、安心して働ける職場にする。③ミドルチームを中心に業務の効率化を考えた取組を推進する。
特別支援教育 担当 特別支援教育部・校内委員会	①早期かつ的確に行えるよう、専任を中心に園と連携して入学前の支援の引継ぎを丁寧に行い、スタートカリキュラムに生かしていく。②特別支援コーディネーターを低・中・高担当に分担し、専任・管理職・校内委員会につなげる支援体制を組み、早期の情報共有と対応を行う。
児童指導 担当 児童指導部・特別支援教育部	①困った子ではなく「困っている子」という児童理解を職員全体で共通理解し、特別支援教育と連動して指導を行う。②児童指導全体計画を作成し、幼保小連携、スタートカリ、生活・総合を軸とした自己発揮と自己有用感の醸成、自己肯定感を育むコーチングの授業を位置づけ未然防止の取組を行う。
自分づくり教育 担当 指導部・研究部	①生活科・「横浜の時間」を中心に、身近な人やまちとかかわりながら体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者とかかわりの中で自己有用感を高めるようにする。②思いや願い、感じたことや考えたことを素直に表現すること、自己決定を大切に、自己発揮できる学級風土を作るようにする。
スタートカリキュラム 担当 スタートカリ推進担当	①スタートカリキュラムを6年間のスタートと位置付け、実践からとらえられる子どもの姿をエビデンスとするスタートカリキュラム研究を推進する。②児童支援と連動し、教育課程全体で本校の重点とする資質・能力の育成を目指す。